

クレグ・バーンズ説教

民数記第 11 章 1～6 節

「～だったらよいのに (If only)」という言葉で始まる祈りや夢がとても危険なのは、
5 ひょっとすると自分の願っていることがそのままかなえられてしまうかもしれない、と
いうところにあります。もしそうなったら、それでもなお続く不幸を、いったいあなた
はどのように説明するのでしょうか？

祈りましょう。

慈しみの神よ、私たちはあなたの言葉を求めてここに集いました。それ以外のことは、
10 私たちには何の役にも立たないからです。それゆえ、これからのしばらくの時、私たちの
求めに対してあなたが慈しみ深くあってください。キリスト・イエス、肉となられた
言葉において祈ります。アーメン。

ヘブライ人たちがエジプトを後にし、砂漠に行く困難な旅が始まった時、聖書が「困
15 った連中」[the rabble、民 11・4、新共同訳聖書では「雑多な外国人」と訳されている]と呼ぶ人び
との一団が同行していました。「困った連中」とは、旅に参加しているながら、その旅が神
の旅であることを信じていない人たちです。セシル・B・デビル監督による古典的な名
画「十戒」では、この“困った連中”をエドワード・G・ロビンソンが演じました。あの
男のことをご記憶ですか？ 些細な問題が起こるたび、ロビンソンはモーセを見上げて
20 言うのです。「さあ、モーセよ、お前の神は今どこにいるのだ？」そして反乱が起こ
りそうになったり、いろんな問題が起こりそうになる。この“困った連中”は、不愉快な
ことを我慢する能力は低い。不平を言う能力は実に高い。これは、まったくひどい取り
合わせです。

教会は、こうした“困った連中”の代表者を、牧師招聘委員会のメンバーには決して加
25 えません (笑)。けれども、私は確信をもって言いますが、この“困った連中”の代表者
たちは、どの教会でもあなたを待ち受けています。この“困った連中”の存在には、聖な
る目的があるのです。彼らがそこに配置されているのは、あなたの益のためです。彼ら
は、あなたが絶えず神と対話するようにさせてくれるのです (笑)。もしも“困った連
中”がいなかったなら、あなたは今の半分も祈ろうとはしなかったことでしょう！ (笑)

30 スウィナンス主教が、新たな司祭の叙階式に出席した時はいつでも、式の最中に叙階
者の隣に行く機会を狙っていたそうです。近寄って行って耳元でこう囁くためです。「神
があなたを祭司にお召しになったのは、あなたを信徒のままにしておく、とんでもない
ことが起こるとお考えになったからですよ」(笑) 私たちのある者には、祈りの助
け手が必要です。そこで、“困った連中”が教会にいるというわけです。

35 “困った連中”には強硬な願いがありました。彼らは不平を言いました。「どこを見回

してもマナばかりで、何もない！」 マナのことはご存じでしょう。それは日ごとに与えられる祝福の糧、砂漠の荒れ野に行く民に降ったパンでした。それは薄い、フレーク状のもの。自分の分は自分で集めなければなりません。毎朝、拾い集めなければならなかったのです。たくさんの量はありません。旅の間、何とか命を長らえるだけの分量で
40 した。これらのことは、旅の間、神がどのようにして私たちが霊的に生かしてくださるかを示す、すばらしいメタファーでもあります。

私がこのマナのことで好きなのは、その言葉を単純に訳すと「これは何？ (What is it?)」という言葉になることです。ヘブライ語を字義通りに訳すとそうなるのです。「これは何？」 私はそのことがとても好きです。毎朝、母親たちだろうと思いますが、出
45 て行って拾い集めたのでしょうか。ボール一杯の、「これは何？」を(笑) そして、家に持ち帰ってくる。精一杯腕を振るい、工夫して料理したに違いありません。なかなかたいへんだったでしょう。“「ホワット・イズ・イット」ヘルパー” [CookDoのように食材に混ぜ込めば料理ができあがる調味料] などなかったのですから(笑)。母親が夕の食卓にそれを置くと、子どもはじっとそれを見て言ったでしょう。「これ、何？」(笑) 母親は
50 答えます。「ええ、そうよ」(笑)。みんなは頭を下げ、「神さま、感謝します……何これ？」(笑)

つまり、来る日も、来る日も、来る日も、40年もの間、民は質問を発することで養われたのです。「神さま、あなたがなさろうとしていることは、いったい何なのでしょう？ 私たちを用いてなさろうとしていることは、何なのでしょう？ あなたが私たち
55 にお求めのことは、いったい何なのでしょう？」

この問いは何百年も大切にされ続け、ヨハネによる福音書の第6章に至ります。そこで主イエスは御自分を新しいマナと重ね合わせておられます。主イエスは、要するに、御自分が答えであると言っておられるのです。「神がなさろうとしていることは、何なのだろう？」という問いに対する答えである、と。しかしその時、主イエスは、私はマ
60 ナである、と言っておられます。つまり、この問いに対する答えは、またもうひとつの問いである、ということです。それは、最初の問いよりもずっとよい問いなのです。私たちが問うべき問いはこうです。「主イエスよ、あなたがなさろうとしていることは、いったい何なのでしょう？」 この問いは、牧師が毎朝問うべき問いです。この問いを、
日ごとのマナのように口にします。

ですから、まことの問いとは、次のようなものではありません。「お前は今日、牧師として成功するために、また、“困った連中”を静めるために、何をなすべきか？」「お前に、それをやり遂げる力があるか？」 そうではなく、あなたが毎朝、本当に尋ねなければならないのはこうです。「主イエスは、今、何をなさろうとしているのだろう？ (What is it that Jesus IS doing today?)」 「主イエスだったら、何をなさるだろう？ (What would Jesus do?)」と問うのではありません。まるで主イエスが、十字架の上に置き去
70

りにされたままであるかのようなものであってはならないのです [“What would Jesus do?” は、福音派のある種の教会で WWJD と略されてアクセサリーにされるほどに流行している言い回し]。主イエスは生きておられ、あなたの会衆のただ中で働いておられます。問うべきは、「主イエスが、今日、なさろうとしていることは、いったい何なのだろう？」という問いです。

75

“困った連中”が、この問いに感じ入るだろうと期待してはなりません。彼らは私たちがこの問いを自分に向けて問うことを妨害し、私たちの信仰の足をひっぱるのです。それに替えて、彼らは別のフレーズが好きなのです。それは「～だったらよいのに (If only)」というフレーズです。「私たちが肉を食べられたらよいのに」、というように。

80

「ここにスミス牧師がここにずっといてくれたらよかったのに。1950年代には、この場所は人でいっぱいだった！」 そう、1950年代はどの教会だって人でいっぱいでした (笑)。「われわれの牧師が、青年担当者を、もっと押さえつけてくれたらよいのに」。

「この教会がもっと大胆な活動をしてくれたらよいのに。でも、これ以上、何も変えちゃだめだぞ！」 (笑) そして、そうした言葉を聞き続けるうち、あなたもまたあなた

85

なりの「～だったらよいのに」が心に浮かび始めます。「この“困った連中”がいなかったらよいのに」 (笑)。けれども、“困った連中”はいなくなりません。彼らのほうが、いつでも「教会を出るぞ」と脅してくる (笑)。どうして、それが脅しになると考えるのかわかりませんが (笑)。「だったら、ご勝手にどうぞ」 (笑)。ところが、出て行くのは素敵な人ばかり。あなたは“困った連中”から逃れられません (笑)。忘れないでください、彼らはあなたの祈りの助け手として、そこにいるということを (笑)。

90

“困った連中”を追い出せないことがわかれば、あなたは今度はこう言い始めます。「もっと自分を支えてくれる長老たちがいたらよいのに」。「この教会がこの世での使命を果たすことに、もっと心を向けてくれたらよいのに」。「私が別の教会に変わったらよいのに」。「私が法科大学に行っていたらよかったのに (笑)」。

95

これらの「～だったらよいのに」の問題は、将来、あるいは過去に思いを向けさせることにあります。その結果、「～だったらよいのに」というフレーズは、現在形で語られる事柄を審くのです。そのことが思い出させるのは、マナを見出せる唯一の場所がどのようなであったか、ということです。マナは、あなたが手にするその日だけ姿を現すのです。

100

現在形で語ることをもって満足し、喜びを得るのが最も難しい場所、それは、あなたが牧会のリーダーとして歩んでいるときであろうと思います。

モーセは民数記第11章で、そのことをはっきり示しています。モーセは旅のこの時点までは、完璧なモデルとして、おどおどせずにリーダーシップを発揮してきました。“困った連中”が、ファラオは自分たちを紅海の水をもって殺そうとしている、と不平を言った時、モーセは杖を伸ばしてその水を分け、主は彼らを自由へと導かれました。“困

105

った連中”が焚きつけて、こんな砂漠には水がないとみんなに不平を言わせた時、モーセは水を見つけてやりました。“困った連中”が、この砂漠にはパンがない、と不平を言った時、モーセは神に語り、マナが与えられました。モーセがシナイ山の上に留まりすぎたために“困った連中”が不安になり、みんなにもちかけて金の子牛を拝ませようとした時、神は怒り燃えて、モーセに告げました。「あなたの民がしたことを見たか！ そこをどけ。私は彼らを滅ぼし尽くそう。そして、あなたに新しい教会を与えよう」(笑)。これは私なりに言い換えたものではありませんが..... (笑)。3か月もこんな気分屋で不平ばかりの民と過ごしたら、もしも私がモーセだったら、その提案を受け入れていたことでしょう (笑)。しかし、モーセは違いました。モーセは神のもとに戻って言うのです。「ああ、彼らはあなたの民、エジプトの国からあなたが導き出された民ではありませんか。あなたが始めになさった約束を思い出してください」。そしてモーセは、神に思い直していただく。テキストはそのように終わっています。

そして、今日のテキスト、民数記第11章が始まります。最初の3節では、再び民が不平を言い出したこと、そしてその時、主が民の一部に火を放たざるを得なくなったことが語られています。もしもモーセが再び仲裁に入っていなかったなら、主はこの一団全部を滅ぼし尽くしていたでしょう。しかし、“困った連中”が、肉のことやら何やらで民を焚きつけた時、モーセはついにキレてしまいました。

11節でモーセは主に言います。「あなたは、なぜ、僕を苦しめられ、この民をわたしの重荷として負わせるのですか？」 12節で神に言います。「わたしが彼らの母親でしょうか？」 13節で言います。「肉をどこで見つければよいのでしょうか？」 14節で言います。「わたしはとてもこの民を負うことはできません」。そして、言うのです。「どうしてもあなたの僕に対してこのようになさりたいなら、どうか殺してください」(笑)。まるで研究休暇を必要としている牧師のようです (笑)。すると、神はモーセに答えて言われます。「見よ、肉を願っていることについては、私が面倒をみることにしよう。しかし、今この時、私にはあなたのほうが少し気がかりだ」。

教会のリーダーシップをとっている時、自分のつとめは民を約束の土地へ連れて行くことにある、と思いついでしまうことがあります。それは、決して、そう、決して、私たちのつとめではありません。それは、神にお任せすればよいのです。神お一人が、民を約束の土地に導くのです。私たちのつとめは、モーセのように、民を愛すること、そして日ごとのマナを彼らに示すことです。あの問いを問い続けるのです。「主イエスがなさろうとしていることは、いったい何なのだろう？」。それが、私たちが民を愛する方法です。民を約束の土地へ導くのは、神のつとめです。ところが私たちは、まったくその逆をするのが好きです。民を愛することは神に任せて、私たちが民を動かしたくなる (笑)。「さあ、立ち止まらないでください、歩いて、歩いて」、というように..... (笑)。

けれども、違います。あなたに与えられた召しは、あなたが戸惑うときにも、人々を愛

することです。

時々、同じ場所をぐるぐると巡り歩いているような感覚に襲われることが、あなたにもおありでしょうか？ 29年間の牧会生活を送ってきた今、私の心にある最も大きな感覚は何だと思いいになるでしょうか？ デジャヴュ [既視感] です (笑)。おわかりになる
145 でしょうか？ 昔の教会に置いてきたはずの人たちが、またそこ戻ってきたような感覚が
続くのです (笑)。私はこれまで3つの教会に仕えてきました。彼らがどこでも姿を現
すのです。違う名前で、違う顔で。そこで私はいつも思います。「あなたを置いてきた
はずなのに！」 (笑) そこにいるのは、“困った連中”。デジャヴュです。私はまるで
150 同じ議論を繰り返しています。婦人たちがきれいに飾った応接間で、中学生たちがピザ
を食べていいのか？ (笑) 特別献金を始めたら、定期献金の額が減るんじゃないか？
(笑) 教会のバンを使ったのに、どうして誰もガソリンを補給しておかないのか？
同じ議論を、幾度も幾度も繰り返し続けるばかり。そこで私は、自分たちにはまったく
155 進歩がないと嘆くこともできるでしょう。あるいは、その時、私のつとめは、主イエス
が今何をなさろうとしているのかをただ証言し続けることだけだと、思い直すこともで
きるはずです。それは、民を約束の土地に導くことに比べればずっと楽なつとめです。
もしも、神が自分に期待しておられることがはっきりしていれば、燃え尽きそうになる
こともずっと少なくなるに違いありません。

私たちが戦略的な思考、戦略的プランやヴィジョン・ステイトメントの文章を練り上
げようとする代わりに、「主イエスが、今、なさろうとしていることは、何なのだろう？」
160 と問うてみてはどうでしょう。それだけで、私の一日は十分です。来る日も、来る日も、
来る日も、そのマナを口にすることを選ぶのです。

聖ベネディクトが修道会規則を記したとき、新しい入会者の迎え方について、とても
奇妙な短い指示を書き留めました。入会者を修道院の真ん中に連れてきて、他の修道士
たちみんなが彼を取り囲んで並ぶ。そこで入会者の街着を脱がせ、修道衣を着せる。し
165 かしその時、その街着をしまったクローゼットに鍵をしないのです。これは、素晴らしい
ことではないでしょうか？ つまり、毎朝、その修道士が自分のクローゼットのところ
に行って扉を開けるたび、そこには2着の服があるのです。1つは修道衣、もう1つ
は街着。彼は、朝ごとに、どちらの服 (habit) にしようか (follow)、自分で選んだの
です。修道士は、自分が選ぶと誓願を立てたことを、選び直すようにさせられたのです。

つまり、修道士は、自分のつとめを、自由に選びながら生きたのです。あなたも私も、
170 同じです。毎日、私たちは、自分がすでに選んだことを、選び直しています。私たちは
そこから逃れられないわけではありません。自分は逃れられないと思っている牧師は、
危機に瀕しています。そのような人たちは、その人自身が危険な状態にありますし、教
会の者たちもまた危険にさらされています。あなたは逃れられないわけではありません。
175 牧師でいること、ただそれだけが、あなたの人生に与えられている召命ではありません。

あなたに与えられている大いなる召命、それは実は、牧師でいるということよりもさらに大いなるものです。あなたに与えられている大いなる召命、それは神を知り、神を永遠に享受することです。もしも牧師でいることが困難を生む原因であるなら、牧師職にとどまる必要はありません。あなたには、ほかのことをする自由があるのです。私がそう言うのは、あなたが牧師でいることをやめさせようとしてのことではありません。それでも、あなたはこの旅を続けることを選び直さなければならないということに気づいていただきたいのです。

あなたは自由をもって、選ばなければなりません。もしも、何らかのしかたで自分を用いていただきたいのなら。私たちが行くようにと常に招かれてきたことを、民がなすことができるように助けていく、ということを選び直すのです。それは、民が日ごとのマナを見出しつつ、あの問いを問うようにさせることです。「主イエスが、今、なさろうとしていることは、いったい何なのだろう？」

しかし、最も危険な“困った連中”、それは、あそこで待っている人々ではありません。それは、ここに、私たち自身の心の中にある“困った連中”です。それゆえ、私は、決してこういうアドバイスには同意できません。「ただ自分の心を信じなさい」。もしもあなたの心が私の心と似ているとすれば、毎日のように、最悪な委員会が行われているような気分でしょう（笑）。議事日程などおかまいなしに、みんなが会議をのっころうとするのです。「私の意見を聞け、私の意見を聞け」、というように。

そう、その場所こそ、戦うべき本当の場所であり、あなたが召命としてすでに選んだことを、選び直さなければならない場所です。あなたに与えられている本当の召命、あなたへの本当の招きとは、この問いを問うことです。「主イエスが、今、この会衆の中でなさろうとしていることは、いったい何だろう？」あるいは、この問いを問うことを選ばないことも、あなたにはできるのです。

しかし、ここから、実に恐ろしい部分が始まります。神は、あなたの選択を重んじてくださいます。その最後、民がヨルダン川を渡るとき、モーセは民と共にいることはありませんでした。モーセは、そうなれば自分は幸福になれると思っていましたが、決してそうではなかったのです。

父と子と聖霊の名によって、アーメン。

205 (2010年5月20日、フェスティバル・オブ・ホミレティックス (於・ナッシュビル) における説教、ジム・ピーターソン&平野克己訳)

Craig Barnes Sermon

Numbers 11:1-6

210 The great danger of any prayer or dream that begins with the words, “If only”, is that you might receive what you are craving. And then, how will you explain your unhappiness?

Let us pray.

Gracious God we have gathered here seeking your word. No other will do for us.
215 So in these next moments we ask that you would be gracious to our seeking. In the name of Christ Jesus, the word made flesh. Amen

When the Hebrews left Egypt and began their difficult journey through the desert they brought with them a group of people that the Bible calls, “the rabble”. The rabble were
220 people who were on the journey but not believers in the journey. In Cecil B. DiMill’s great old classic movie, “The Ten Commandments” the rabble were personified by the character of Edward G. Robinson. Remember that guy? Any time the slightest problem would emerge along the way Robinson would look up at Moses and say, “Ya Moses; where’s your God now?” and a riot would break out and all kinds of problems. The rabble’s capacity for discomfort
225 was low. Their capacity for complaint was very high. This is a terrible combination.

Churches never include a representative of the rabble on the pastor’s search committee. But I assure you that representatives are waiting in every congregation. There is a holy purpose for the rabble. They are placed there for your benefit. They keep you in constant conversation with God. Without the rabble you would not pray half as much as you
230 do!

Whenever Cardinal Swinance was participating in the ordination of a new priest he always looked for some opportunity in the ceremony to walk up next to the ordinand and whisper in his ear, “God has called you to the priesthood because he does not trust you to be a layman.” Some of us need help praying. That’s why we have the rabble.

235 The rabble had a strong craving. They complained, “There is nothing at all for us but this manna to look at!” You know about the manna. It was the daily blessing of bread that rained down for the people as they made their way thru the desert wilderness. It was a fine, flaky substance. Everybody had to get their own. You had to get it every morning. It wasn’t much. Just enough to keep you alive on the journey. All of which are wonderful
240 metaphors for how God keeps us spiritually alive on the journey.

But my favorite thing about the manna is simply the translation of its name,

which is, “What is it?” That’s the literal translation from the Hebrew. “What is it?” I just love this part. Every morning, I assume it would be the moms, would go out and gather up a bowl of “what is it”. They’d bring it back home. They’d prepare it as creatively as they could, I’m
245 sure. Which was hard because there was no “what is it” helper. They’d put this on the table for dinner and the kids would look at it and the kids would say, “What is it?” and the mother would say, “yes”. They bow their heads; “Thank you oh God for... what is it?”

What this means is that day after day after day for forty years the people were nurtured by a question. “What is it, oh God, that you are doing?” “What is it that you are
250 making of us? What is it that you are asking of us?”

This question just kept persevering for centuries really, right up to the 6th chapter of John where Jesus identifies himself as the new manna. Essentially Jesus is saying that he is the answer to the question, “What is it that God is doing?” But then Jesus calls himself the manna, which means the answer to the question is another question. It’s just a better
255 question. Our question is, “What is it Jesus that you are doing?” It’s a question that the pastor better be asking every morning. You take that question in like your daily manna.

So the real question is not, “What must you do this day to succeed as a pastor or to calm down the rabble?” or “Do you have what it takes?” The question that you really must ask each morning is, “What is it that Jesus IS doing?” The question was never, “What would
260 Jesus do?” as if Jesus was left behind on the cross. Jesus is alive and at work in your congregation. The question is, “What is it that Jesus IS doing today?”

Just don’t expect the rabble to be real impressed by this question. They undermine our faith by getting us to stop even asking the question ourselves. Instead they have a different phrase they prefer, and their phrase is, “if only”. If only we had meat to eat.
265

If only we still had Dr. Smith here. Back in the 1950s this place was packed! Well, every church was packed in the 1950s. If only our present pastor was strong enough to do something about the youth director. If only this church had more sense of dynamic to it; just don’t change anything. And you keep hearing that and you find that you start coming up with your own “if onlys”. If only the rabble would leave. But the rabble never leaves. They
270 always threaten to leave. Why do they think that’s threatening to us? So go! No, only the cool people leave. You’re stuck with the rabble. Remember they’re there to help you pray.

And when you realize that you’re not going to get rid of the rabble you start saying, “You know, if only we had more supportive elders. If only our church was really interested in being missional. If only I could go to a different church. If only I had gone to
275 law school.”

The problem with these “if onlys” is that they focus you either on the future or the

past. And as a result, the phrase, “if only” is a judgment on the present tense, which remember, is the only place where you can find the manna. It only shows up in the day that you have.

280 I think that one of the hardest places to find present tense contentment and delight is when you are in leadership of ministry.

Moses certainly illustrates that in the 11th chapter of Numbers. Up to this point in the journey he has been an absolute model of non-anxious leadership. When the rabble complained that Pharaoh was going to kill them by the waters of the Red Sea Moses stretched his staff over the waters and they divided and the Lord led them into freedom. 285 When the rabble got everybody complaining that there was no water out in the desert Moses found them the water. When the rabble complained that there was no bread in the desert Moses talked God into the manna. When Moses was up on Sinai too long and the rabble became anxious and they talked everyone into worshipping a gold calf God became so 290 furious that he said to Moses, “Look what your people have done! Step aside, I’m going to consume them and I’ll get you a new church.” This is my paraphrase but its... after 3 months of being with these whiney, complaining people, if I was Moses I would have taken that deal. But not Moses. He comes right back at God again and says, “Oh, these are your people that you brought up out of the land of Egypt, and remember the promises that you 295 made at the beginning.” and Moses changed God’s mind. That’s how the text ends.

Then we get to our text today in Numbers 11 and the first three verses tell us that the people start complaining again and this time the Lord couldn’t stand the temptation to torch some of them. And he would have consumed the whole bunch if Moses hadn’t interceded again. But when the rabble got everybody going on this meat thing something in Moses just 300 snapped.

In verse 11 he says to the Lord, “Why have you treated me so terribly that you would put the burden of these people on my shoulders?” In verse 12 he says to God, “Am I their mother?” In verse 13 he says, “Where am I supposed to find meat?” In verse 14 he says, “I can’t carry these people.” and then he says, “If this is the way you’re going to treat your 305 servant just go ahead and kill me now.” This is a pastor in need of a study leave. So God responds to Moses by saying, “Look, I’m going to take care of this craving for the meat, but right now I’m a little more worried about you.”

When you are in leadership of the congregation it is so tempting to think that it is your job to get the people to the Promised Land. That’s never, never been our job. That is reserved for God. God alone guides the people to the promised land. Our job is to, like Moses, 310 love these people and show them the daily manna. To keep asking the question, “What is it

that Jesus is doing here?" which is how we love them. It's God's job to get the people to the Promised Land. Now we would prefer this just the opposite. Let God love the people and we'll just move them along. Just keep moving... But no, your call is to love the people even
315 as you wander._

Sometimes it feels like your just wandering around in circles doesn't it? After 29 years of pastoral ministry you know what my most dominant feeling is? Déjà vu. You know what I mean? I keep finding the same people I left in the church that was back there. I've served three churches; they just keep showing up. Different names, different faces and I
320 keep thinking, "I thought I left you!" Rabble... it's déjà vu. I keep having the exact same arguments... can the Jr. High eat pizza in the parlor that the women decorated? If we have a special offering will it detract from the giving to the general offering? Why doesn't anybody put gas in the church van? We just keep having the same arguments over and over again. I could lament that we're not really making any progress here. Or I could be reminded that
325 my job is to simply witness to what Jesus is doing along the way. It's a much easier job than getting people to the Promised Land, by the way. It is much less tempting to burn out if you're clear about God's expectations of you.

In spite of all of what we've been doing with strategic thinking and strategic plans and vision statements, how about, "What is Jesus doing?" That's enough to fill up my day. I
330 choose that day after day after day by taking in that manna.

When St. Benedict wrote his rule for monasteries, he included a wonderfully odd little set of instructions for how to receive the new novice. He said to bring the novice into the center of the monastery, line all the other monks in the monastery around him. Take the street clothes off of the novice and place upon him the habit of the monk. But then leave the
335 street clothes in an unlocked closet. Isn't that fascinating? What that means is that every morning when the monk went to his closet, he opened the door and there sat two habits. One was the habit of the monk and the other was the habit of the street clothes. He chose each morning which habit he would follow. He had to choose what he had already vowed to choose.

What that means is that he made his choice, he lived out his vocation in freedom. So do you and I. Every day we choose what we have chosen. We are not stuck. Pastors who think that they are stuck are dangerous. They are dangerous to themselves, they're dangerous to their congregations. You are not stuck. Being a pastor is not your only calling in life. You have higher callings, actually, than being a pastor. Your highest calling is to know
345 and enjoy God forever. If being a pastor is making that hard to do you don't have to stay in ministry. You are free to do something else. I call you to that, not to try to get people to stop

being the pastor, but to realize that you have to choose to stay on the journey.

You have to choose in freedom if you are going to be of any use, helping people do what we have always been called to do, of finding this daily manna, asking the question,
350 “What is Jesus doing?”

But you see, the most dangerous rabble is not the folks out there. It’s the rabble in here, in our own hearts. This is why I have never understood the advice, “Just trust your own heart.” If your heart is anything like mine, most days it feels like there’s a bad committee meeting going on in there. Everybody’s trying to highjack the agenda; “pick me,
355 pick me”...

Well that’s the place where the real battle ground is, and that’s where you have to choose what you have chosen as a vocation; your true vocation, your true calling, to ask this question, “What is Jesus doing in this congregation?” or to choose not to.

But here’s the really scary part. God will honor your choice. At the end, Moses was
360 not with the people when they crossed the Jordan river, and it did not make him as happy as he thought it would.

In the name of the Father, Son and Holy Spirit, Amen.